

くすっ子



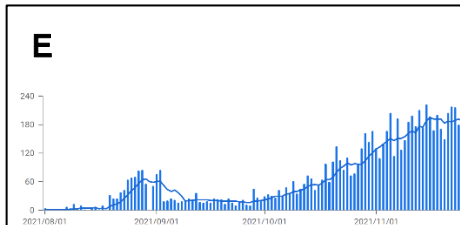
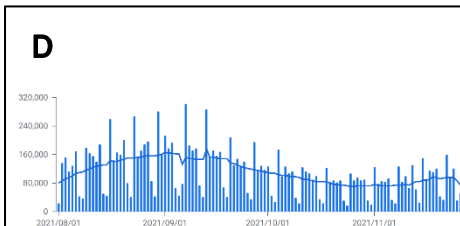
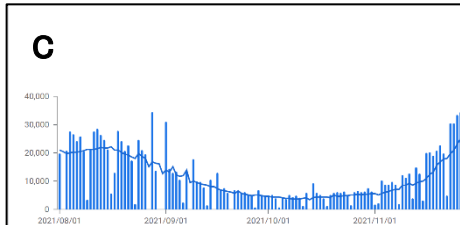
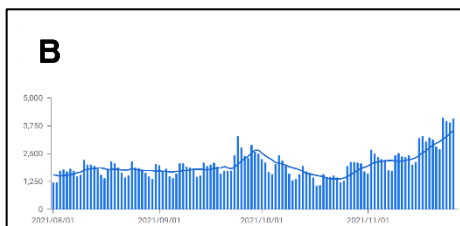
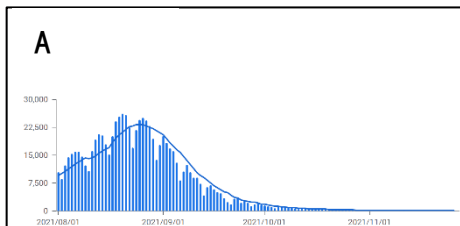
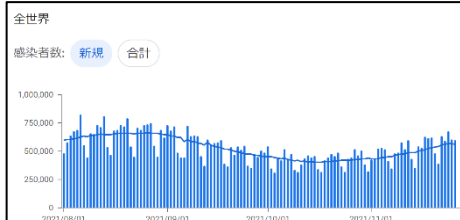
鴻巣市立屈巣小学校
学校だより
令和3年11月30日
No. 14

《花いっぱい 夢いっぱい 笑顔いっぱい 屈巣小》
花をさかせる学校・夢をはぐくむ学校・笑顔あふれる学校

これからが、「みけまてお3と換気」の大事な時期

引用サイト：Google ニュース新型コロナウイルス統計情報
<https://news.google.com/covid19/map>

校長 諏訪 けん



まずは、左のグラフをご覧ください。

グラフは、国別の新規感染者数（折れ線グラフ）と直近7日間の平均（棒グラフ）を表しています。期間は、令和3年8月1日～11月28日までです。さて、日本はA～Eのどれだと思われますか。（答えは、A）ここ2か月間の報道を振り返ると、答えにご納得いただけたと思います。ここ2か月間は、感染者が大幅に減り、埼玉県では1桁という日もあります。

しかしながら、一番上の全世界に目を向けると、ここ1か月でまた増え始め、8月の頃とあまり状況が変わらないということがわかります。さらには、BCEのように、ここ1か月間で急激に感染者が増えている国があることが大きな特徴です。特に、Cの国があるヨーロッパの多くの国は、Cと同じグラフの形をしています。また、Eの国のように、日本で感染が急拡大し第4波と言われた8・9月は、感染が抑えられていた国が、この2か月間に急増し、日本とは逆のグラフになっているという地域もあります。

人口密度・ワクチンの接種率・気候風土・人々の感染症対策の取組・大陸か島国か等々の違いがあり、単純に比べたり置き換えたりすることはできませんが、日本がCをはじめとするヨーロッパ諸国のようになる可能性がないわけではありません。一番下のグラフは、12月20日までの日本の新規感染者数を予測したものです。これによると、この先今までよりも感染者の増え方が大きくなることも予測されています。（グラフ中の緑の線）

マスクをした生活も約2年近くにおよんでいます。期間が長くなればなるほど、そして、感染者数が減少すればするほど、私たちの警戒心はどうしても低下してしまいます。しかしながら、世界的な規模で考えると、例年インフルエンザや風邪が流行るこれからの時期は、再度、気を引き締めることが求められていると考えます。学校におきましては基本的な感染症対策の合言葉「みけまてお3＋常時換気（防寒を衣服で）」を侮らず、引き続き実践してまいります。各ご家庭でのご協力も、よろしくお願いいたします。

2021年もあと1か月となりました。

寒さが本格的になってまいります。子どもたちには、交通事故等大きなケガにつながるような、安全面にも留意して過ごしてほしいと思います。そして、元気に新たな年2022年を迎えたいと思います。

12月20日までの日本の新規感染者数の予測推移



まどをすこしあけるニャーよ